

小林和正元人口資質部長の逝去

元人口資質部長 小林和正氏は、かねて病氣療養中であったが、平成5年5月24日午前7時55分、心不全のため神田駿河台の日本大学病院で逝去された。享年74歳であった。

謹んでご冥福を祈るものである。

氏は、昭和21年5月人口問題研究所に入所し、昭和50年3月に部長職を辞するまで、29年の長きにわたり、人口問題に関する調査研究に多大の業績を残された。また、研究のかたわら熱心に後進の指導に当たられ、温厚な人柄で信頼が厚かった。

氏が人口問題の調査研究に残された業績は数多いが、なかでも、人骨に基づく縄文時代人の寿命の研究、家系図に基づく江戸時代の寿命の研究などの近世までの寿命研究は極めて貴重なもので、人口学、寿命学に大きく貢献された。人骨に基づく縄文時代人の寿命の研究は氏の博士論文でもある。また、出産力調査、南米でのインカ・プレインカ文明の起源に関する調査など、国内あるいは国外での多くの調査に参加し、その企画、実施、分析に中心的役割を演じ、貴重な成果をあげられた。

さらに、現在の人口情報部の基礎を築かれたことがあげられる。氏は、昭和35年4月に創設された調査部資料科の初代科長に就かれ、所の発行する機関誌（人口問題研究）、研究資料、英文資料、その他各種の刊行物の編集、発行の任に当たられ、氏の几帳面な性格と、緻密さは研究所の刊行物を極めて高い水準に引き上げた。また、生命表、人口再生産率などの人口学的指標の時系列整理、現在の図書室運営の確立等、研究の支援部門の充実を図り、所の研究活動に大きく貢献された。

学会に関する業績としては、昭和45年から日本人口学会の監事、昭和49年から同理事、そして、昭和59年に同会長に選出され、学会の発展に貢献された。また、昭和63年に著書『東南アジアの人口』で第1回日本人口学会学会賞を受賞された。

所外の活動としては、豊かな学識経験をもって、人口問題審議会委員、厚生省医療審議会委員、資源調査会専門委員として活躍された。また、国際連合アジア極東経済委員会コンサルタント、同人口部人口担当ならびにコンサルタントとして、国際的にも活躍された。

人口問題研究所を退官後は、京都大学東南アジア研究センター教授、日本大学教授として研究活動、後進の指導に当たられた。

略 歴

大正8年2月1日 東京市小石川区日向台町において出生。第二東京市立中学校、静岡高等学校を経て
昭和16年4月 東京帝国大学理学部人類学科へ入学、同18年9月卒業
昭和18年10月 東京帝国大学理学部大学院へ入学
昭和18年10月 海軍予備学生
昭和19年5月 海軍少尉（予備員）充員召集
昭和20年6月 海軍中尉（予備員）
昭和21年3月14日 充員召集解除
昭和21年5月15日 人口問題研究所事務取扱嘱託（調査部第四科勤務）
昭和23年4月1日 人口問題研究所研究員
昭和23年6月11日 厚生技官
昭和32年9月14日～33年9月13日 国連人口センターにおいて人口学に関する研究のためインドへ出張
昭和35年4月1日 人口問題研究所調査部資料科長
昭和35年6月18日～同年7月12日 人口センサス結果の評価及び利用に関する地域間セミナー（インド）出席
昭和38年4月1日 人口問題研究所資料課長
昭和38年8月10日 資源調査会専門委員
昭和39年2月25日 第11回太平洋学術会議組織委員会委員

昭和41年5月1日 東京大学アンデス地帯学術調査員（東洋文化研究所）に併任（昭和41年12月31日まで）
 昭和41年9月2日～昭和41年12月10日 インカ・プレインカ文明の起源に関する調査・研究のためペルー、チリ、
 ボリビア、米国、メキシコ、コロンビア、エクアドル、パナマ、コスタリカ、カナダに出張
 昭和41年6月13日 理学博士学位授与
 昭和41年9月29日 第8回国際人類学・民族学会組織委員会専門委員
 昭和42年1月1日 厚生省勤続20年表彰
 昭和45年4月1日 埼玉大学教養学部講師に併任（昭和46年3月31日まで）
 昭和45年6月 日本人口学会監事
 昭和45年10月8日～昭和46年2月7日 国際連合アジア極東経済委員会コンサルタントとしてタイ及びインドへ
 派遣
 昭和46年8月15日～昭和47年8月31日 国際連合アジア極東経済委員会人口部人口担当としてタイへ派遣
 昭和47年7月1日 人口問題研究所人口政策部政策科長
 昭和48年4月1日 京都大学理学部講師に併任（昭和49年3月31日まで）
 昭和48年9月1日～昭和49年7月31日 国際連合アジア極東経済委員会人口部コンサルタントとしてタイへ派遣
 昭和49年6月5日 人口問題研究所人口資質部長
 昭和49年6月 日本人口学会理事
 昭和49年9月17日 人口問題審議会専門委員に併任
 昭和49年11月14日～同年12月4日 バングラデシュ医療協力基礎調査のため団長としてバングラデシュに出張
 昭和50年3月1日 文部省へ出向（東京大学東南アジア研究センター教授）
 昭和51年8月 国際協力事業団派遣インドネシア家族計画打合せ調査団長
 昭和52年11月 国際協力事業団派遣インドネシア家族計画R/V交換使節団長
 昭和52年11月 厚生省医療審議会委員
 昭和56年9月 人口問題審議会委員
 昭和57年4月1日 京都大学東南アジア研究センターを停年退官
 昭和57年4月2日 日本大学人口研究所教授
 昭和58年11月 国際協力事業団派遣メキシコ人口活動促進プロジェクト協力計画策定専門家チーム団長
 昭和59年3月 国際協力事業団派遣中華人民共和国人口・家族計画基礎調査団
 昭和59年7月 国際協力事業団派遣メキシコ人口活動促進プロジェクト第2次実施協議調査団長
 昭和59年6月 日本人口学会会長
 昭和60年3月 国際協力事業団派遣メキシコ人口家族計画打合わせ調査団長
 昭和61年1月 国際協力事業団派遣メキシコ人口家族計画打合わせ調査団長
 昭和61年6月 日本人口学会名誉会員
 昭和61年11月 国際協力事業団派遣メキシコ人口活動促進プロジェクト巡回指導調査団長
 昭和63年6月 第1回日本人口学会賞受賞
 平成元年1月31日 日本大学人口研究所停年退職
 平成元年4月1日～平成4年3月31日 日本大学人口研究所顧問

主 要 著 作 目 録

I 人口問題研究所刊行物

1 『人口問題研究』

| 〈標題〉 | 〈巻号 | (刊行年月) : 頁〉 |
|---|------------|--------------------|
| 産児制限実態調査結果の概要 (第1次報告) (共著) | 5-10・11・12 | (1948. 4) : 16-32 |
| 価値態度体系と人口問題 | 9-1・2 | (1953. 11) : 23-34 |
| 農村相続世帯における家族サイクルの諸段階 | 64 | (1956. 5) : 15-37 |
| 江戸時代農村住民の生命表 | 65 | (1956. 8) : 12-24 |
| PEP報告書「世界の人口と資源」World Population and Resources: A Report by PEP, 1955. 9 (PEP=Political and Economic Planning, UK) | 64 | (1956. 5) : 25-57 |
| Coal および Hoover によるインドの将来人口の推計 | 79 | (1960. 6) : 45-62 |
| “アジアおよび極東における人口センサス・データの評価と利用に関する 国連セミナー” 概況報告 | 81 | (1960. 12) : 38-55 |
| 人骨の推定死亡年齢に基づく寿命研究の状況 | 90 | (1964. 3) : 55-64 |
| 家系図資料による人口再生産構造の研究—下北地方—農村調査より— | 96 | (1965. 10) : 12-25 |
| 日本人口の構造と変動—上— Ⅲ. 死亡 1. 死亡率の推移 | 100 | (1967. 1) : 82-91 |
| 日本人口の構造と変動—上— Ⅲ. 死亡 2. 生命表から見た死亡 | 100 | (1967. 1) : 92-96 |
| 出土人骨による日本縄文時代人の寿命の推定 | 102 | (1967. 4) : 1-10 |
| 夫婦の出生歴データのライフ・サイクル的集計 | 104 | (1967. 10) : 39-48 |
| 第20回簡速静止人口表 (昭和41年4月～昭和42年3月) (共著) | 105 | (1968. 1) : 59-65 |
| わが国出生力の最近の動向 (共著) | 108 | (1968. 10) : 1-15 |
| 第5次出産力調査結果の分析(1) | 110 | (1969. 4) : 1-24 |
| 全国世帯規模の時代的推移—国勢調査間の比較性を中心として— (特集日本における世帯の動向) | 111 | (1969. 7) : 4-20 |
| 第21回簡速静止人口表 (昭和42年4月～43年3月) (共著) | 111 | (1969. 7) : 72-78 |
| 第5次出産力調査結果の分析(2) | 112 | (1969. 10) : 1-20 |
| 第5次出産力調査結果の分析(3) | 113 | (1970. 1) : 31-47 |
| 転換期の家族に関する国際円卓会議 | 113 | (1970. 1) : 74-76 |
| 第5次出産力調査結果の分析(4) | 115 | (1970. 7) : 1-31 |
| 第5次出産力調査結果の分析(5) | 119 | (1971. 7) : 26-40 |
| 第5次出産力調査結果の分析(6) | 120 | (1971. 10) : 23-44 |
| わが国出生力構造の最近の動向 (共著) | 128 | (1973. 10) : 31-42 |
| 国際連合「人口と家族に関するシンポジウム」 | 128 | (1973. 10) : 70-72 |
| 人口の生物学的基礎 | 132 | (1974. 10) : 1-10 |
| バングラデシュ医療協力(家族計画)基礎調査 | 133 | (1975. 1) : 56 |
| 〔書評・紹介〕 | | |
| T・H・ホリングスワース「英国貴族に関する人口学」 | 97 | (1966. 1) : 56 |
| D・V・グラス稿「第2次世界大戦以降のヨーロッパにおける出生力の動向」 | 108 | (1968. 10) : 54 |
| ピーター・R・レンバーグ稿「コーホート・ライフサイクルの研究： 1830～1920年マサチューセッツ生まれの女子コーホート」 | 113 | (1970. 1) : 63 |
| J・ベレント稿「東欧およびソ連における出生力低下の原因 (その1： 人口学的要因の影響)」 | 115 | (1970. 7) : 58 |

| | | |
|--|-----|-----------------|
| W・プラス(編)『人口学の生物学的側面』 | 118 | (1971. 4) : 61 |
| 石南國著『韓国の人口増加の分析』 | 124 | (1972. 10) : 63 |
| A. H. Pollard, et. al.; <i>Demographic Techniques.</i> | 132 | (1974. 10) : 47 |

2 『人口問題研究所年報』

| | | |
|--------------------------------------|----|--------------------------|
| ファミリー・サイクルより見た農村相続世帯 | 1 | 昭和31年度(1956. 10) : 45-50 |
| 文明との接触による植民地原住民の人口変化 | 2 | 昭和32年度(1957. 8) : 50-53 |
| インドにおける出生地別・居住地別人口の分布に関する一考察 | 4 | 昭和34年度(1959. 10) : 63-69 |
| 子の年齢別にみた父母の生存する割合 | 5 | 昭和35年度(1961. 1) : 63-66 |
| 産業別男子就業者の年齢構造—変動傾向の比較: 1950~1955年 | 6 | 昭和36年度(1961. 11) : 40-44 |
| 産業別男子就業者の年齢構造—変動傾向の比較: 1955~1960年 | 7 | 昭和37年度(1962. 9) : 15-19 |
| 東京への人口集中の推移に関する男女年齢階級別分析: 1920~1960年 | 8 | 昭和38年度(1963. 11) : 52-56 |
| 府県別資料による出生時の体重と乳児死亡率との相関関係: 1960年 | 9 | 昭和39年度(1964. 12) : 69-73 |
| 1932年10月~33年9月生まれ全国日本人女子コーホートの人口学的分析 | 10 | 昭和40年度(1965. 10) : 66-69 |
| 戦前戦後わが国全国死亡率の推移(共著) | 11 | 昭和41年度(1966. 11) : 47-50 |
| 妊娠届出数による出生数の推計(共著) | 12 | 昭和42年度(1967. 10) : 61-63 |
| わが国の老年人口増加に対する死亡率低下の影響: 1950~1965年 | 12 | 昭和42年度(1967. 10) : 74-78 |
| 1960年代前半のわが国人口の出生力(共著) | 13 | 昭和43年度(1968. 12) : 29-32 |
| 出産順位との関連における1950年代以降わが国出生力の動向 | 14 | 昭和44年度(1969. 10) : 12-15 |
| わが国有配偶女子出生力の最近の動向(共著) | 18 | 昭和48年度(1973. 12) : 14-18 |
| 産業別男子就業者の年齢構造の変動: 1955~1970年(共著) | 19 | 昭和49年度(1975. 3) : 13-16 |

3 「研究資料」

| | | |
|--|-----|------------|
| 産児制限実態調査の概報(共著) | 21 | (1947. 10) |
| 産児制限の効果について—ニューヨーク市の一婦人群を対象とするスティックス及び ノートシュタインの研究—(共著) | 62 | (1950. 8) |
| 青ヶ島調査の概報(共著) | 100 | (1955. 1) |
| 生活態度調査中間報告 その1 昭和電工川崎工場工具 | 103 | (1955. 2) |
| 青ヶ島調査資料(人口移動・通婚) | 111 | (1956. 1) |
| 農村の相続世帯における家族の世代構成に関する統計的考察 | 113 | (1956. 2) |
| 農家世帯員の就職及び結婚の機縁に関する調査資料—山梨県中巨摩郡玉穂村における 昭和30年度総合調査結果の部分報告— | 116 | (1956. 3) |
| インドの人口に関する主要統計資料 | 131 | (1959. 7) |
| わが国の国勢調査における世帯統計 1920年—1950年 | 134 | (1960. 4) |
| 産業別就業人口の年齢構造の変動 | 146 | (1962. 3) |
| わが国の年次別標準化人口動態率 大正9年~昭和35年(共著) | 155 | (1963. 8) |
| わが国の年次別再生産率 大正14年~昭和35年(共著) | 157 | (1963. 12) |
| わが国の年次別安定人口動態率および年齢構造 大正14年~昭和35年(共著) | 161 | (1964. 11) |
| 第17回簡速静止人口表(生命表)(昭和38年4月1日~39年3月31日)(共著) | 162 | (1964. 12) |
| 第18回簡速静止人口表(生命表)(昭和39年4月1日~40年3月31日)(共著) | 166 | (1965. 10) |
| 都道府県別標準化出生率[昭和5年全国人口標準] 昭和5年・25年・30年・35年(共著) | 167 | (1966. 2) |
| 都道府県別標準化死亡率[昭和5年全国人口標準] 昭和5年・25年・30年・35年(共著) | 169 | (1966. 7) |
| 第19回簡速静止人口表(生命表)(昭和40年4月1日~41年3月31日)(共著) | 171 | (1966. 9) |
| 第20回簡速静止人口表(生命表)(昭和41年4月1日~42年3月31日)(共著) | 179 | (1967. 11) |
| 第21回簡速静止人口表(生命表)(昭和42年4月1日~43年3月31日)(共著) | 191 | (1969. 5) |

4 “English Pamphlet Series”

Household Data in the Population Census of Japan and Some Aspects of Household Changes 72(1970)

5 「海外参考資料」

J.H.ステュアド, ポルト・リコ島社会人類学的調査の基本問題—コミュニティ調査の理論と実践 6(1954. 9)

6 「実地調査報告資料」

典型的社会集団の人口学的総合調査結果報告書 第1巻 農村の部(共著) 昭和30年度(1957. 3)
第5次出産力調査報告(概報)(共著) 昭和42年度(1968. 3)

II 人口問題研究所以外の刊行物

1 公刊図書

(1) 一般 ※刊行年順

『生活する人間』(科学ノート 人間の解明3), 日本評論新社, 1963. 10

『産業別男子就業者の年齢構造の変動』(人口情報第5号), 人口問題研究会, 1975

小林和正, 田村真八郎, 河邊宏, 内野澄子著, 『食料資源と日本の人口』(日本人の生活と適応性シリーズ7), 社会保険新報社, 1979. 5

小林和正編著, 『人口』(人類学講座第11巻), 雄山閣, 1979. 5

小林和正編著, 『生活』(人類学講座第13巻), 雄山閣, 1981

『東南アジアの人口』(東南アジア研究叢書19), 創文社, 1984. 2

小林和正, 吉田忠雄編, 『ソ連・東欧と中国の人口問題』(人口学研究シリーズ12), 千倉書房, 1991. 11

小林和正, 加藤壽延編, 『第3世界の人口と経済開発』(シリーズ・人口学研究3), 大明堂, 1993. 1

小林和正, 大淵寛編, 『死亡と生存の人口学』(シリーズ・人口学研究4), 大明堂, 刊行予定

(2) 主要関係機関

【アジア経済研究所関係】

小林和正編, 『アジア諸国の人口統計評価と人口分析』(統計参考資料71-3 No.79), アジア経済研究所, 1971

上田耕三, 小林和正, 大友篤著, 『アジア人口学入門』(アジアを見る眼54), アジア経済研究所, 1978

【大学関係】

Cho, L.-J., & Kobayashi, K. (ed.), “Fertility Transition of the East Asian Populations” (Monographs of the Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University English-languages Series No. 13), University Press of Hawaii, 1979

小林和正, 南條善治, 『逐次近似法による簡略生命表作成の研究 日本大学人口研究所オケージョナルセミナー 1984年2月10日(金) 10:00~12:00』, 日本大学人口研究所, 1984

『アセアン諸国人口増加の概観』(総長指定の総合研究「アセアン世界と日本」研究報告シリーズ No.1), 日本大学総長指定の総合研究, 1984. 3

『生命表による出生間隔の分析』, 日本大学太田海外学術交流基金, 1986. 2

小林和正, 南條善治, 『日本の世代生命表—1891~1986年期間生命表に基づく—』(日本人の将来寿命に関する総合的研究), 日本大学人口研究所, 1988. 3

Nanjo, Z., & Kobayashi, K., “Method of Computing the Expectation of Life at Old Age on the Basis of the Principle of Agreement with Data” (NUPRI Research Paper Series, No.36), Nihon

- University, Population Research Institute, 1987
- Nanjo, Z., & Kobayashi, K., "Measuring the Demographic Discontinuity" (NUPRI Research Paper Series, No. 57), Nihon University, Population Research Institute, 1991. 3
- Kobayashi, K., Matsukura, R., & Ogawa, N., "Demographic Transition in Postwar Japan: A Time-Series Analysis" (NUPRI Research Paper Series, No. 62), Nihon University, Population Research Institute, 1993. 3

2 公刊図書収載論文

(1) 一般

- 「人口からみたヒトの発展」, 近藤四郎編, 『人の進化』(現代人間学 1), みすず書房, 1961. 11, pp.318-415
- 「戦後におけるわが国国内人口移動に関する研究展望」, 館稔編, 『大都市人口の諸問題』(形成選書), 古今書院, 1961. 10, pp.178-208
- 「戦後におけるわが国国内人口移動に関する研究展望」(共著), 館稔編, 『日本の人口移動』(形成選書), 古今書院, 1961. 10, pp.178-208
- 「アジア低開発国の人口圧迫」, 南亮三郎・館稔編, 『世界の人口問題』(人口学研究会研究叢書 2), 勁草書房, 1963, pp.241-272
- 「現代人の生存力」, 八杉龍一編, 『生命とはなにか』(KAWADE PAPERBACKS 91), 河出書房, 1964. 3, pp.183-218
- 「下北の人口——農村部落の人口繁殖構造を中心として——」, 九学会連合下北調査委員会編, 『下北—自然・文化・社会—』平凡社, 1967. 3, pp.82-94
- 「人口史研究と人口学の立場」, 社会経済史学会編, 『経済史における人口—社会経済史学会第37回大会報告—』, 慶應通信, 1969. 10, pp.50-69
- "Traditions and Transitions in Family Structure in Japan", Campbell, A. A. (ed.), *The Family in Transition*, (Fogarty International Center Proceedings, No. 3), Bethesda, Fogarty International Center, 1971, pp.105-134
- "Microevolution and Modernization of Japanese" (共著), Watanabe, S., & Matsunaga, E., *Anthropological and Genetic Studies on the Japanese*, Tokyo, Univ. of Tokyo Press, 1975, pp.5-14
- 「日本の人口政策」, 福島正夫編, 『現代日本の家族政策』(家族政策と法2), 東京大学出版会, 1976, pp.323-368
- 「アジア諸国の家族計画」, 福島正夫編, 『社会主義国・振興国』, 東京大学出版会, 1976, pp.337-376
- "Differential Fertility by Working Status of Women in Japan", Kupinsky, S. (ed.), *The Fertility of Working Women: A Synthesis of International Research*, New York, Praeger Publishers, 1977, pp.317-341
- 日本経済教育センター編集専門委員会(監修 小林和正), 『あすの人口と食糧をみつめる その現況と未来から』, 日本経済教育センター
- 「人口学における生物学的側面」, 南亮三郎・上田正夫編, 『人口学の方法』(人口学研究シリーズ 4), 千倉書房, 1979. 10
- "Recent Advances in Micro-Level Demography of Fertility", Suzuki, T., & Ohtsuka, R. (eds.), "Human Ecology of Health and Survival in Asia and the South Pacific", University Tokyo Press, 1987, pp.111-120
- 「わが国の高齢人口の増加について」, 日本大学経済学研究会編, 『経済理論の現代的課題—日本大学創立100周年記念論文—』, 勁草書房, 1989. 10, pp.203-214

(2) 主要関係機関 ※機関名の50音順

【アジア経済研究所関係】

- 「アジア人口の将来」, アジア経済研究所, 『アジアの人口構造』(アジア経済研究シリーズ 1), 1960, pp.227-259
- 「アジア人口の増加予測と構造変化」(共著), アジア経済研究所『アジアの人口増加と経済発展』, (アジア経済研究シリーズ 20), 1962. 1, pp.77-104
- 「セイロンの人口構造と経済構造」, 南亮三郎編, 『セイロンの人口構造と経済構造』(アジア経済研究シリーズ 35), 1962, pp.35-82
- 「マラヤ連邦人口の社会的構成」, 南亮三郎編, 『マラヤ・シンガポールの人口構造』(アジア経済研究シリーズ 49), 1963, pp.159-177
- 「インド人口の社会的構造」, 南亮三郎編, 『インドの人口増加と経済発展 I』(アジア経済調査研究双書 113), 1965, pp.175-200
- 「パキスタンの人口構造」, 南亮三郎編, 『パキスタン人口の経済分析』(アジア経済調査研究双書 130), 1967, pp.71-94
- 「中国大陸の人口増加」, 南亮三郎編, 『中国の人口増加と経済発展』(アジア経済調査研究双書 177), 1970, pp.37-54
- 「台湾の人口調査と人口増加」, 南亮三郎編, 『台湾の人口と経済』(アジア経済調査研究双書 192), 1971, pp.11-29
- 「タイの人口動態」, 南亮三郎編, 『タイ・ビルマの人口と経済』(アジア経済調査研究双書 207), 1972, pp.81-102
- 「アジアの死亡力」, 南亮三郎編, 『アジアの人口と経済』(アジア経済調査研究双書 219), 1974, pp.163-177
- 「数理モデルによる年齢別人口構造の比較—Logit System の適用—」, 大友篤, 嵯峨座晴夫編, 『アジア諸国の人口構造と労働力』(研究参考資料 287), 1980, pp.69-230
- 「死亡率の年齢パターン—モデル生命表との比較—」, 大友篤, 嵯峨座晴夫編, 『アジア諸国の人口動態』(研究双書 310), 1982, pp.191-220

【アジア人口・開発協会(APDA)関係】

- 「死亡率の地域差とその収縮」, 『日本の人口転換と農村開発』(人口と開発シリーズ 1), 1985. 2, pp.55-69
- 「日本の人口転換と高齢化 2. 人口高齢化の諸段階」, 『日本の人口構造変動と開発—高齢化のアジア的視点—』(人口と開発シリーズ 11), 1990. 2, pp.29-38
- 「居住地域環境と人口構造」, 『日本の人口・開発・環境—アジアの経験—』(人口と開発シリーズ13), 1991. 2, pp.31-41

【毎日新聞社人口問題調査会関係】

- 「家族規模」, 『日本の人口革命』, 毎日新聞社, 1970. 7, pp.53-106
- 「座談会=アジア人口会議をふりかえって」, 『アジアの人口 人類の危機を招来するか』, みき書房, 1974. 4, pp.39-89
- 「人類の壮大な実験」(共著), 『アジアの人口 人類の危機を招来するか』, みき書房, 1974. 4, pp.193-206
- 「人口動態の歴史的経過」, 「日本人口の再生産力はどう変わるか」, 「寿命の延長と経済社会との関係」, 『日本の人口 人類の危機を招来するか』, みき書房, 1974. 7
- 「家族規模」, 『日本の人口問題』, 至誠堂, 1976. 2, pp.53-106
- 「親子間の態度および老後の問題」, 『毎日新聞社第15回全国家族計画世論調査報告書』(資料第112号), 1979. 12, pp.54-71
- 「避妊」, 『毎日新聞社第17回全国家族計画世論調査報告書』(資料第114号), 1984. 8, pp.67-75
- 「避妊」, 『毎日新聞社第18回全国家族計画世論調査報告書』(資料第115号), 1986. 8, pp.76-86
- 「避妊・総論」, 『記録 日本の人口 少産への軌跡 家族計画世論調査・20回全資料』, 毎日新聞社, 1990. 10

3 公刊雑誌収載論文

(1) 学会

【人口学研究 [日本人口学会]】

| 〈標題〉 | 〈巻号〉 | 〈刊行年月〉, 頁 |
|--|------|------------------|
| わが国戦後の初婚率と初婚年齢 | 2 | (1979. 5), 11-16 |
| 死亡・純移動複合表 | 7 | (1981. 5), 17-22 |
| 幕末・明治の都市化と人口 (第38回大会報告要旨 共通論題報告 [A部会] 「幕末明治期の都市化と人口」) | 10 | (1987. 5), 70-71 |
| 死亡・健康研究のフロンティア ([第41回大会報告要旨] 共通論題報告 [B部会]) (学会報告) | 13 | (1990. 5), 83-84 |

【人口学研究会紀要】

| 〈標題〉 | 〈巻号〉 | 〈刊行年月〉, 頁 |
|---|------|------------------|
| 生物人口学 [第278回(1985年10月19日)] | 28 | (1986. 1), 15-16 |
| 人口研究というもの: ささやかな所感 [第291回(1987年1月24日)] | 30 | (1988. 3), 4-4 |
| 人口学研究会会員数の動向 1959~88年度 [第308回(1988年11月19日)] | 31 | (1989. 3), 17-17 |
| 届出年次別挙式年次別婚姻件数表にみられる挙式年次のヒービング [第318回 (1989年10月21日)] | 32 | (1990. 2), 13-13 |
| 無人島の人口論 [第331回(1991年1月19日)] | 34 | (1992. 2), 2-2 |
| 人口現象としての生存と死亡 [第346回(1992年6月20日)] | 35 | (1993. 2), 11 |

【人類学雑誌 [日本人類学会]】

| 〈標題〉 | 〈巻号〉 | 〈刊行年月〉, 頁 |
|-------------------------------------|--------|--------------------|
| 家族のサイクルより見た伊豆青ヶ島の人口の生態 | 64-1 | (1955.), 15-26 |
| 江戸時代農村住民の寿命 | 65-1 | (1956.), 32-48 |
| 平均寿命延長の意義 | 70-3/4 | (1963.), 33-44 |
| 縄文時代人恥骨の形態と死亡年齢の推定 | 72-2 | (1964. 9), 43-55 |
| 人類学における人口研究の意義 | 87-1 | (1979. 1), 1-8 |
| 古代日本への渡来者数に関する埴原推計に対する人口学的コメント (寄書) | 96-1 | (1988. 1), 119-123 |

(2) 大学 ※雑誌名の50音順

| 〈標題〉 | 〈誌名〉 | 〈巻号〉 | 〈刊行年月〉, 頁 |
|--|--|------|---------------------|
| Trends in the Length of Life Based on Human Skeltons from Prehistoric to Modern Times in Japan | Faculty of Science, University of Tokyo, Section V | 3-2 | (1967. 9), 107-162 |
| デモグラフィック・トランジションと家族計画 政策 | UP [東京大学出版会] | 5-9 | (1976. 9), 14-192 |
| 中南米諸国の激増する人口 | 海外事情 [拓殖大学] | 12-7 | (1964. 7), 44-53 |
| 日本人成人死亡率低下の年齢秩序に関する一考察 | 経済集志 [日本大学] | 54-3 | (1984. 10), 724-727 |
| タイ国人口増加の地域構造: 1960~1970年 | 東南アジア研究 [京都大学] | 19-1 | (1981. 6), 19-53 |
| 東南アジアの人口増加と死亡率低下 | 東南アジア研究 [京都大学] | 20-2 | (1982. 9), 3-27 |
| 人口分析の環 | 東南アジア研究 [京都大学] | 20-2 | (1982. 9), 177-183 |
| わが国の都市問題 はしがき [昭和57・58・59年 共同研究] | 日本大学経済学部経済科学研究 所紀要 | 9 | (1985. 3), 59 |
| わが国の最近の出生力変化に関する研究 [昭和 56-58年共同研究] (共著) | 日本大学経済学部経済科学研究 所紀要 | 12 | (1988. 3), 27-43 |

(3) 一般雑誌 ※誌名の50音順

| 〈標題〉 | 〈誌名〉 | 〈巻号 (刊行年月), 頁〉 |
|--|------------------------|---------------------------|
| 吉林産力調査村を訪ねて思うこと | アジア 人口と開発 [アジア人口・開発協会] | 9 (1984. 6), 14-19 |
| 人口・家族計画基礎調査 中国 (共著) | アジア 人口と開発 [アジア人口・開発協会] | 16 (1986. 3), 16-18 |
| 死亡率の地域的差異 (人口と医学 第5土曜特集) | 医学のあゆみ [医歯薬出版] | 85-13 (1973. 6), 899-905 |
| 生命表の理論 (人口と寿命 第5土曜特集) | 医学のあゆみ [医歯薬出版] | 132-13 (1985. 3), 933-938 |
| 日本人の寿命 | 遺伝 [装華房] | 19-1 (1964), 13-16 |
| 進化における人の 'むれ' の意味 | 科学 [岩波書店] | 37-4 (1967), 198-203 |
| 世帯の統計 (統計ハイウェイ) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 15-12 (1968. 10), 21 |
| 奄美大島における人口動態統計をめぐる諸問題 そのⅢ 奄美大島・徳之島の出産歴調査による 出生・死亡の届出漏れについて | 厚生指標 [厚生統計協会] | 16-11 (1969. 10), 22-30 |
| “人口”のはじまりはいつか (統計ハイウェイ) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 17-7 (1970. 7), 22 |
| 掘り出された人口 (統計ハイウェイ) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 18-3 (1971. 3), 26 |
| アジアの人口統計 (統計ハイウェイ) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 20-1 (1973. 1), 43 |
| 出生率の将来予測 (統計ハイウェイ) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 22-6 (1975. 6), 25 |
| 甲斐国現在人別調とひのえうま | 厚生指標 [厚生統計協会] | 23-5 (1976. 5), 44 |
| 夫婦年齢差の伸縮自在な適応 (統計ハイウェイ) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 24-8 (1977. 8), 31 |
| タイ国の出生率低下 (統計ハイウェイ) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 25-14 (1978. 11), 41 |
| 甲斐国の人口動態率 | 厚生指標 [厚生統計協会] | 26-2 (1979. 2), 3-16 |
| 現代版“政治算術” (統計ハイウェイ) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 27-4 (1980. 4), 31 |
| 生命統計 (統計ハイウェイ) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 28-6 (1981. 6), 29 |
| 結婚シーズン (統計ハイウェイ) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 29-4 (1982. 4), 34 |
| 生命表 (統計ハイウェイ) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 30-3 (1983. 3), 31 |
| 170年前の出生死亡の都市農村格差調査 (統計ハイウェイ) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 31-5 (1984. 5), 25 |
| 人口研究の学際性 (統計ハイウェイ) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 32-5 (1985. 5), 37 |
| 職業・産業別人口動態統計を考える | 厚生指標 [厚生統計協会] | 32-12 (1985. 10), 3-8 |
| 日本人の寿命(1)出土人骨からみた寿命 (縄文時代) [特集 寿命 2] (共著) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 33-1 (1986. 1), 24-30 |
| 人口のわけ方 (統計ハイウェイ) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 33-10 (1986. 9), 36 |
| 寿命の延びをどう実感的にとらえるか (統計ハイウェイ) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 35-1 (1988. 1), 59 |
| 統計資料集について考える (統計ハイウェイ) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 37-2 (1990. 2), 25 |
| 最近の日本の安定人口 (統計ハイウェイ) | 厚生指標 [厚生統計協会] | 39-11 (1992. 10), 8 |
| 西ヨーロッパの人口問題 | 国土 [国土計画協会] | 13-2 (1963. 9), 29-35 |
| バングラデッシュの家族計画—バングラデッシュ 医療協力 (家族計画) 基礎調査団報告— | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 27 (1975. 1), 34-43 |
| 座談会 中国文化と出生抑制 (共著) | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 33 (1976. 1), 34-39 |
| 座談会 第14回家族計画世論調査をめぐる (共著) | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 52 (1977. 9), 21-28 |
| 開關依頼の人口 (連載 人口うちそと第1話) | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 60 (1978. 7), 18-21 |

| | | | |
|------------------------------------|--------------------|-------|-------------------|
| 人類人口の起源（連載 人口うちそと第2話） | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 61 | (1978. 8), 21-24 |
| 人間的自然の動態（連載 人口うちそと第3話） | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 62 | (1978. 9), 27-30 |
| 日本の多産（連載 人口うちそと第4話） | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 64 | (1978. 12), 29-32 |
| 出生力的にみた人口構造（連載 人口うちそと第5話） | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 65 | (1979. 1), 29-32 |
| 粗出生率の構造（連載 人口うちそと第6話） | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 66 | (1979. 2), 26-28 |
| 世代の置き換え(1)（連載 人口うちそと第7話） | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 67 | (1979. 3), 32-36 |
| 世代の置き換え(2)（連載 人口うちそと第8話） | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 68 | (1979. 4), 29-32 |
| 人口学的人間（連載 人口うちそと第9話） | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 69 | (1979. 5), 35-37 |
| 生と人口（連載 人口うちそと第10話） | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 70 | (1979. 7), 31-34 |
| 人口ともう一つの顔一質（連載 人口うちそと第11話） | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 71 | (1979. 8), 35-38 |
| 東南アジアの高密度地域（連載 人口うちそと第12話） | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 72 | (1979. 9), 38-41 |
| 実地調査と出生力低下（連載 人口うちそと第13話） | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 73 | (1979. 11), 33-36 |
| 注目されるタイ国の出生力（連載 人口うちそと第14話） | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 74 | (1979. 12), 21-24 |
| 注目されるタイ国の出生力（つづき）（連載 人口うちそと第15話） | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 75 | (1980. 1), 28-31 |
| 家族計画プログラムの出生力効果（連載 人口うちそと第16話） | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 76 | (1980. 2), 23-26 |
| フィリピンのプログラム成果（連載 人口うちそと第17話 最終回） | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 77 | (1980. 3), 26-30 |
| 理想子供二人か三人か？—第16回全国家族計画世論調査報告書を読んで— | 世界と人口 [家族計画国際協力財団] | 105 | (1982. 9), 56-61 |
| エカフェ地域の人口 | 統計 [日本統計協会] | 11-8 | (1960. 8), 60-63 |
| 民族人口の統計 | 統計 [日本統計協会] | 19-11 | (1968. 11), 1-6 |
| 明年の国勢調査に期待する | 統計 [日本統計協会] | 20-10 | (1969. 10), 26-31 |
| 日本人の寿命 | 統計 [日本統計協会] | 34-3 | (1983. 3), 1-7 |
| 開発途上国の人口問題 | 統計 [日本統計協会] | 36-1 | (1985. 1), 13-18 |
| 昭和の人口統計 | 統計 [日本統計協会] | 41-9 | (1990. 9), 20-27 |
| 民族の統計（テーマ 民族） | 統計 [日本統計協会] | 42-11 | (1991. 11), 2-9 |
| 統計資料の扱い方 | 民族学研究 [日本民族学協会] | 27-3 | (1963), 57-60 |